
クリスマスプレゼント

秋山

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

クリスマスプレゼント

【Nコード】

N0847G

【作者名】

秋山

【あらすじ】

初めての短編小説です。まだまだ不慣れです。

僕は昔からサンタさんの存在なんてからきし信じていなかった。クリスマスになれば、みんなはプレゼントをもらえるだろうけど。でも、僕だけはまともに祝ってくれなかった。お金がないことが、その理由だ。

ある年のクリスマスの晩、僕は買い物をした後、ひとりで地味なクリスマスケーキを作っていた。

母さんはいない。母さんは、遠い昔、父さんと一緒に家を出たきり、帰ってこなかった。だから、母さんとはずっと離ればなれで、父さんは仕事で忙しいから、僕はいつも家に一人だ。

今年のクリスマスもきつと二人きりなんだ。父さんと僕。寂しいけど仕方がない。

その晩も僕は、父さんと一緒にクリスマスイブの夜を過ごした。

僕が寢床についた頃、何か物音がするのを感じた。

何だろうと思いつつ、最初はその音を無視しておいたが、何時までたっても消えない。いや、むしろ音が大きくなっている？！

父さんかな……？ いや、父さんではない。大柄の男だ。父さんはもつとやせている。

僕の部屋に誰かが入り込んでいる。カーペットを踏みしめる音が聞こえ、それとともに戦慄が走る。

僕は、ベット際の壁に張り付くようにして寝返った。影のいるほうを見たくない！

「サム？」

不意に名前を呼ばれた。優しい男の声が聞こえる。

「父さん……？」

しかし、返って来た答えは可笑しかった。

「いや、サンタクロースだよ」

そうか。今日はクリスマスだ。　きつと、父さんが冗談でそんなことを言っているのだろう。

「サンタさん？」

「そうさ。何でもほしいものをいってごらん？　君は特別だ」

僕は耳を疑った。　そういえば、プレゼントなんて珍しい。　生まれて初めてかもしれない。　僕はさっきまでの恐怖を忘れ、ワクワクと胸を躍らせた。

「うーん、それじゃあ……」

僕はさまざまなものを想像した。

プレゼントなら、何がいいだろう。　——そう、初めてのプレゼント！

ゲーム？　サッカーボール？　スニーカー？

うーん……どれもじっくりこないな。　そういえば……

「僕、母さんに会いたいよ。　もう何年も会っていないんだ。　へへ、そんなことサンタさんには無理かもしれないけどね」

サンタは一瞬ためらったが、すぐに答えを返した。

「では、君はもう眠るんだ。　プレゼントは明日になったらあけるんだよ」

きつと、サンタも困り果てて、逃げだしたいと思ったのだ。　僕の予想が当たっていれば、明日になったら粗末な車のおもちゃでも枕元に置かれているハズだ。

サンタが一旦、僕から離れた。　ごそごと袋の中を物色している。　まさか、母さんの中から出すのではあるまい？　一体、何をしているのか気になったが、僕は五分もしないうちに睡魔に襲われて、ぐっすりと眠ってしまった。

翌日、僕は父さんにたたき起こされて目が覚めた。　朝食の手伝いをするのが習慣なのに、僕は寝坊をしてしまった。　僕は枕元を確かめる間も無く、まっさきに台所へとむかった。

一段楽しんで朝食を食べ始めたときに、僕は夕べ起こった出来事を父さんに話した。

「僕、昨日来てくれたサンタさんに、母さんと会いたいって頼んだんだ」

すると父さんは、困ったような顔をして、僕を見た。

「え、なんだい？ サンタクロースって」

「父さんがサンタさんじゃなかったの？」

「寝ぼけているんじゃないのか？ 昨日はさっさと寝てしまったさ、それじゃあ、昨日のサンタさんは……」。

僕は、急いで自分の部屋に戻った。

枕元を確かめると、そこには確かにプレゼントが置かれていた。メッセーじカードが添えられている。

「親愛なるサムへ 母より」

プレゼントのつつみをあけると、中からは土のついた骨がゴロゴロ口と出てきた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0847g/>

クリスマスプレゼント

2010年11月19日08時06分発行